

[様式 1 4]

(対象事業：子供を対象とした事業及びその開発にかかる事業)

事業名：古墳を学ぼう！

事業者名：八尾市立歴史民俗資料館

連携事業館名：八尾市立北高安小学校

住所：八尾市千塚三丁目 1 8 0—1

TEL：0 7 2—9 4 1—3 6 0 1

FAX：0 7 2—9 4 1—6 1 9 3

HPアドレス：yao-muse@kawachi.zaq.ne.jp



①施設概要

八尾市立歴史民俗資料館は、昭和 6 2 年に高安山麓に開館した楽音寺・大竹古墳群、高安古墳群のなかにある資料館です。当館が所在する中河内地域は、浄土真宗の寺内町が多数あり、日本を代表する中世都市がありました。また、江戸時代では河内木綿の中核的産地でありました。このような歴史から資料館収蔵品は、考古資料や寺内町関係資料、河内木綿関係資料など貴重な文化財を保存・公開しています。

②事業の意図目的

八尾市立歴史民俗資料館の周辺にある楽音寺・大竹古墳群と高安古墳群では、約 3 0 0 基ほどの古墳が確認されており、その活用は地域課題のひとつとなっています。本事業は、これら地域遺産を活用するため、学校教育と連携し、地域遺産の活用方法や教育方法を開発し、学校はもとより一般の方々の生涯学習に役立てるために行いました。

③事業概要

史跡である古墳を活用するためには、古墳見学の安全性を確保するとともに、地権者の古墳公開の同意を得て、日常的に学校や市民が活用できる環境をつくることが重要だと考えられます。そこで今回は、小学校と連携し古墳学習における古墳活用の環境をつくることにしました。

活用方法としては、まずワークシートを活用し、古墳の外観や内部構造の学習を行いました。また、古墳から出土した副葬品の学習を資料館で行い、合わせて体験学習や古墳模型の制作を行いました。

この事業では、小学校との連携で得られた結果を受け、その成果を体験学習会などを通じて広く一般の方々に還元したものです。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他（ポスター、チラシ、体験用備品）
作成した報告書等

ビデオ（
冊子（
その他（

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 552 人
内 訳 夏休み体験学習「つくろう！古代のデザイン」参加者 延べ258人
小学校連携事業参加者 延べ294人

(1) 事業の実施状況について

○事前事業：八尾市立北高安小学校との連携事業

「古墳を学ぼう！」平成 19 年 6 月 12・14 日：北高安小学校 6 年生対象)

小学生が古墳学習を行う時、何に最も興味を持つのかということを知るために、小学校 6 年生の担任教諭と協議しながら下記の事業を行った。

①歴史授業（当館の常設展示を活用した古墳学習）

6 年生の歴史学習における古墳時代の授業内容と地域の歴史を結びつけ、当館の常設展示を活用し、古墳や生活に関わる古墳時代の遺物（土器等）などを観察させながら授業を行った。

②体験学習

- ・ 鋳型を使用したガラスの勾玉作り
- ・ 土器・埴輪作り
- ・ 古代の衣装体験

児童が身に着けられる古墳時代の衣装等を作成し、体感させた。

③フィールドワーク・資料館見学（楽音寺・大竹古墳群や高安古墳等をめぐる）

フィールドワーク・資料館見学を通じて、地域を再発見させ、古墳の規模等を実感させた。

これらの取り組みをとおして、児童は古墳時代を体感し、古墳時代についてより深く総合的に学ぶことができた。またこの学習は、ひいては地域の歴史を深く学ぶことになるため、地域の歴史を守る上でも重要な役割を果たせるものである事が認識できた。

また、教員との話し合いで教育プログラムのメニューをいくつか増やした。これについては、児童の反応が良かったため、芸術拠点形成事業に取り入れることにした。

○芸術拠点形成事業

(i) 「つくろう！古代のデザイン」

(平成 19 年 7 月 20 日～9 月 5 日：市民、児童対象)

ここでは八尾市立北高安小学校と連携して行った事業の成果を受け、市民、特に歴史を初めて学ぶ小学校 6 年生の児童に対して体験学習会を行った。この体験学習会では、古墳時代の人々、特に現代と比較しやすいポイントである古墳時代の人々のファッション等にスポットをあて、古墳時代に対するイメージにより広がりを持ってもらうことができた。体験学習開催期間中に行っている企画展で展示している、実際に古墳から出土した本物の資料を活用しながら、古墳時代を体感できるような体験学習を行った。

①『つくろう！ガラスの勾玉』

鋳型を使用したガラスの勾玉作りで、この体験では火起こし体験と韃の体験も併せて実施した。

②『へんしん！古代人』

古代の衣装（貫頭衣、甲冑、胡服、女官衣装、美豆良カチューシャによる髪型の体験）の体験を実施した。

③『つくろう！滑石の勾玉』

滑石の勾玉作りを実施した。

④『つくろう！土器・ミニ埴輪』

土器や埴輪作りを実施した。



「へんしん！古代人」体験風景

(ii) 「高安古墳群服部川コース」ワークシートの配布

八尾市立北高安小学校と事前に行ったフィールドワークの結果をもとにワークシートを作成し、八尾市内全小学校の6年生に配布した。フィールドワーク希望小学校があった場合は、資料館が対応するものである。

(iii) 八尾市立北高安小学校と連携した古墳模型の制作(平成19年10月29日～12月13日)

古墳学習の集大成として、八尾市立北高安小学校の6年生児童を指導し古墳模型を作成した。これは小学校生活最後の成果となる卒業制作として取り組んだものである。なお、今回の古墳模型は国指定史跡心合寺山古墳をモデルとし、1/200のサイズで作成した。



模型制作風景

○事後事業

(iv) 八尾市立歴史民俗資料館企画展「古墳を学ぼう！—小学生との古墳学習連携—」(平成20年3月14日～3月31日)

八尾市立北高安小学校卒業制作の古墳模型を八尾市立歴史民俗資料館にて展示。(～3月31日)

(2) 事業日程

- | | |
|-------|---|
| 3月30日 | 八尾市立北高安小学校との打ち合わせ(第1回) |
| 5月8日 | 八尾市立北高安小学校との打ち合わせ(第2回) |
| 5月18日 | 八尾市立北高安小学校との打ち合わせ(第3回) |
| 5月24日 | 高安古墳群地権者への挨拶(古墳をワークシートに掲載、児童が敷地内でフィールドワークを実施する旨を説明) |
| 5月下旬 | ワークシート原案作成 |

6月 1日	八尾市立北高安小学校との打ち合わせ（第4回）
6月 8日	八尾市立北高安小学校との打ち合わせ（第5回）
6月12日	事前授業「高安古墳群フィールドワーク」の実施
6月14日	事前授業「鋳型を使用したガラスの勾玉づくり」「土器作り」の実施
6月下旬	ワークシート、ポスター、チラシの原案作成
7月上旬	ポスター・チラシ作成配布
7月20日	『つくろう！古代のデザイン』の実施（～9月5日）
7月28日	「つくろう！ガラスの勾玉」（第1回）実施
8月 6日	八尾市立北高安小学校との打ち合わせ（第6回）
8月25日	「つくろう！ガラスの勾玉」（第2回）実施
8月27日	八尾市立北高安小学校との打ち合わせ（第7回）
8月下旬	ワークシートの作成・配布
9月21日	八尾市立北高安小学校との打ち合わせ（第8回）
10月29日	卒業制作（古墳模型の制作）事前授業の実施
11月 2日	卒業制作授業（第1回）
11月 8日	卒業制作授業（第2回）
11月15日	卒業制作授業（第3回）
11月22日	卒業制作授業（第4回）
11月29日	卒業制作授業（第5回）
12月13日	卒業制作完成式
12月27日	古墳模型を資料へ搬入
3月14日	企画展「古墳を学ぼう！—小学生との古墳学習連携—」で八尾市立北高安小学校卒業制作の古墳模型を展示（～3月31日）

（2）地域との連携について

八尾市立歴史民俗資料館が所在する地域には楽音寺・大竹古墳群や高安古墳群といった古墳群があり、当館ではこれらの古墳群から見つかった資料も多く所蔵している。高安古墳群や楽音寺・大竹古墳群に所在する古墳の大半は、個人が所有する土地内にある。そのため、一般公開されているものは少ない。

今回の事業は、地域の文化財を活用し、学校教育と連携して古墳学習における教育方法を模索するものであった。古墳を学ぶためには、古墳が所在する現地での学習は欠かせないと考えられたことから、当館周辺地域にある古墳がかかる土地の地権者に公開と見学についての協力を依頼したところ、いずれの地権者からも快く承諾していただくことができた。このことは、地権者が古墳の存在を再確認し、地域が古墳を積極的に公開する契機となった。

今回の事業は、地域と連携して行ったことで、地域が教育に参加する契機を与えることができ、地域の文化財を活用したことで地域の歴史をより良く保存・活用していくために大きな役割を果たしたと考えられる。

（３）成果物について

今回の事業では、ポスター、チラシとともに高安古墳群のワークシートを作成した。ポスター、チラシは、八尾市内の小中学校、市内各出張所、大学・博物館等関係機関にそれぞれ配布した。またポスターは、近鉄電車の各駅（全５駅）で掲示した。

高安古墳群のワークシートは、事前事業で行った八尾市立北高安小学校との高安古墳群フィールドワークを受けて作成し、小学校での古墳学習に役立ててもらうために八尾市内小学校全２９校に配布した。

八尾市立北高安小学校卒業制作として制作した古墳模型については、資料館にて保管し、活用することで小学校側と合意しており、企画展「古墳を学ぼう！—小学生との古墳学習連携—」にて展示した（平成２０年３月１４日～３月３１日）。

（４）参加者の反応

①「つくろう！古代のデザイン」

ここでは、ガラスの勾玉作り（火起こし体験・鞆の体験含む）、滑石の勾玉作り、土器・ミニ埴輪作り、古代の衣装体験といった４種類の体験メニューを実施した。古代の衣装体験をのぞく３つの体験メニューは、どれも根気が要る作業を伴ったが、参加者にとっては最初から最後まで自らが作成することに魅力を感じており、古代の技術を学びながら達成感も得られたようであった。古代の衣装の体験では、衣装を実際に着てみることで、古代の風俗を体感でき、現代の風俗と比較するなど、ただ衣装を着るということだけに終始せず、楽しみながら学ぶ姿が見受けられた。

ガラスの勾玉作り（火起こし体験・鞆の体験含む）、滑石の勾玉作り、土器・ミニ埴輪作りは体験者層としては子供が多くみられたが、古代の衣装に関しては大人の体験者も多く見られた。

②八尾市立北高安小学校と連携した古墳模型の制作

古墳模型の制作には全１３時間を費やした。長期間にわたる事業であり、難易度の高い学習や作業が続いたにもかかわらず、北高安小学校の児童たちは最後まで真摯な態度で取り組んでいた。また、模型を作ることで改めて古墳をじっくり観察し、新しい発見をしたことなど様々な感想や意見も聞かれた。

（５）芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

今回の事業は、地域の文化財を活用し、学校教育と連携して古墳学習における教育方法を模索するものであった。地域にある文化財（古墳等）を教育という場で活用することは、子供たちが文化財を大切に作る気持ちを養うとともに、地域が教育に参加する契機を与え、地域の歴史をより良く保存・活用していくために大きな役割を果たしたと考えられる。

また、学校教育（今回は小学校）と連携して事業を行ったことから、現在の小学校教育のあり方や児童の様子、小学校教諭の社会科教育に対する考え方など、現場の声をじかに聞くことができた。このことは、当館が今後地域連携事業を行ううえで、また子供向けの体験学習を実施する上で大きな財産となった。

(6) 新聞記事等

○新聞記事



産経新聞（市内版） 平成19年8月8日 朝刊

同様の新聞記事 産経新聞（河内版）平成19年8月8日 朝刊
読売新聞（大阪市内版）平成19年8月23日 朝刊
読売新聞（河内版）平成19年8月23日 朝刊
河内新聞 平成19年8月25日



市政だより やお （7月号）

同様の新聞記事 八尾市発行「市政だより やお」（8月号）
河内新聞 平成19年6月15日
東大阪新聞発行「東大阪」 平成19年6月29日

○テレビ・関連誌等

FM ちゃお「スポーツ文化のお知らせ」

平成19年7月14日 9時30分～10時00分（30分程度放送）

FM ちゃお「ちゃおチャオ792 まちかどレポート」

平成19年8月3日 16時20分～16時30分（10分程度放送）